

「魅力ある学校」づくり通信



この通信は、庄内地域における「魅力ある学校」づくりの検討状況を地域や保護者のみなさまへお知らせするために発行しています。

本号では、令和4年1月24日(月)に開催した第1回地域とともにある学校づくりフォーラムでの内容をお伝えします。

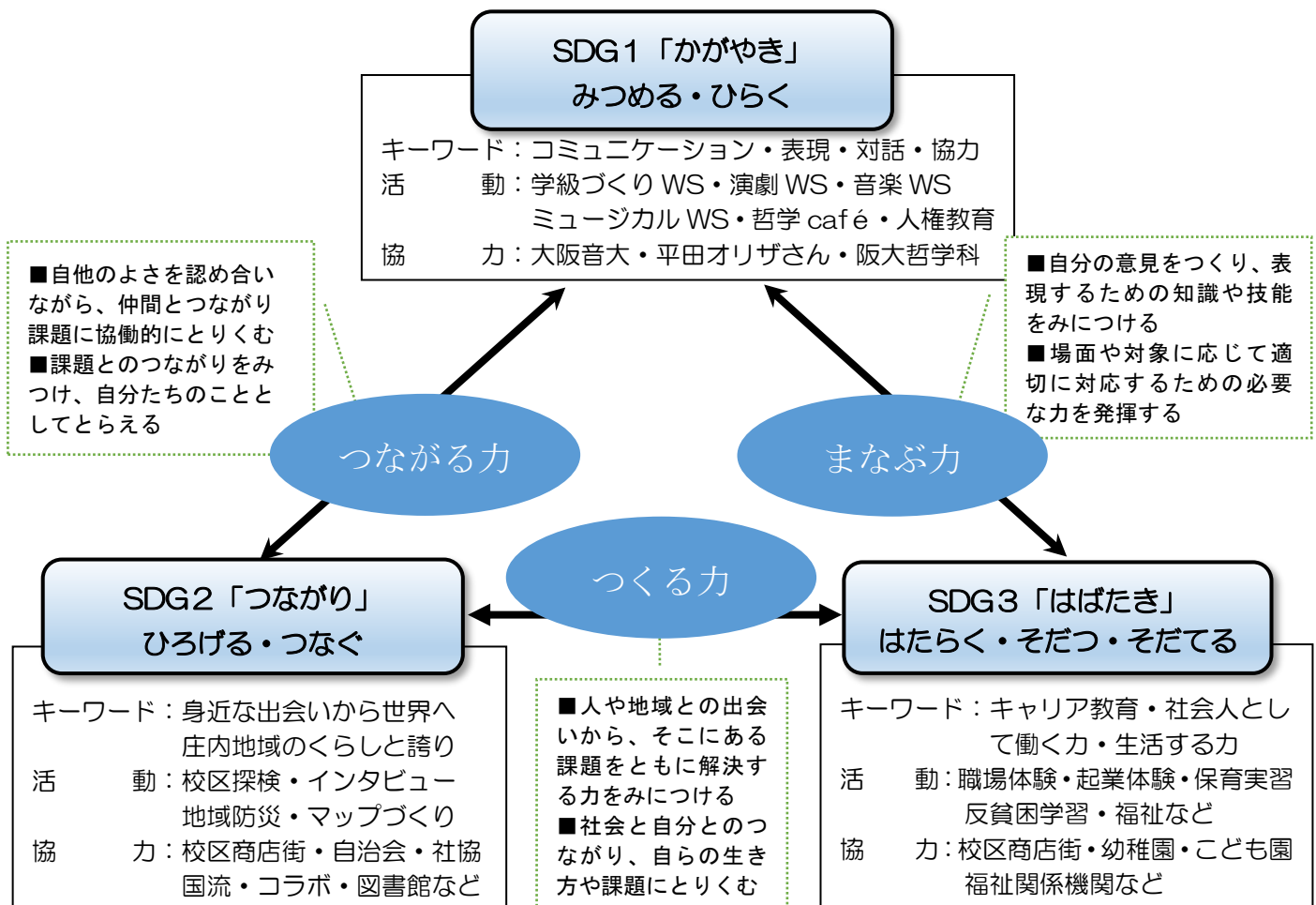
(仮称)庄内さくら学園の検討状況 【野田小学校 校長 溪口 雅也 氏】

総合的な学習「未来探求プロジェクト」・独自教科「庄内市民科SDGプログラム」(概念案)

<子どもたちにかける願い>

- 社会ルールを大切にし、人への優しさを大切にする子ども
- 自他のよさに気づき、認め合い共生社会をつくろうとする人権感覚を持つ子ども
- 自ら学び、考え、表現できる子ども
- 出会いから素直に学び、自分を見つめる力のある子ども
- 将来に希望を持ち、自らの生き方や働き方をつくろうとする子ども

<独自教科「庄内市民科SDG(庄内・大好き・元気)プロジェクト」>



発行 豊中市教育委員会事務局 学校教育課 計画係
電話：06-6858-2706 FAX：06-6846-9649
E-mail：kyokeikaku@city.toyonaka.osaka.jp

豊中市 魅力ある学校



←市ホームページにはカラー版「通信」を掲載しています。

<学校と地域の連携について>

- 庄内市民科 SDG プロジェクトは、子どもたちが未来を生きる力を育むものであるだけでなく、地域と学校が協働して子どもたちを育て合うとりくみでもあります。だからこそ、さまざまな地域の皆さんの協力が必要です。
- 既に、校区の歴史についてのききとり学習や調理実習のサポートなど、教育活動にご協力をいただいておりますが、もっと多様な形で、地域の皆さんに子どもの学びや育ちに関わっていただきたいです。
- 例えば、商店街で働いている人や社会でいろんなところで働いている人と出会うことで、さまざまな生き方を学び、知ることで、子どもたちがこういうふうに住きたいなと考え、自らの生活や学習の課題を振り返りながら、どんなふうに頑張ればいいのか考える機会となればと思っています。
- 子どもたちが、教職員や保護者だけでなく、たくさんの地域の人に見守られ、包み込まれていると感じることで、安心して学習に取り組める学校にしていきたいです。
- 地域の多様な大人が子どもたちに関わることで、子どもたちが成長したときに、地域で活躍したり、さらに次の世代の子どもたちに関わってくれる大人に育つといった世代が循環していく学校になればと思っています
- 大人も子どもも元気になる（仮称）庄内さくら学園にしたいです。

講演：「こどものために みんなで つなぐ 地域とともにある学校 コミュニティ・スクール」

【京都光華女子大学 准教授 西 孝一郎 氏】

1. コミュニティ・スクールの目的

(1) コミュニティ・スクールは、何のため？

①これからの時代を生きる子供たちのために ⇒ 「未来の創り手を育てる」

キーワード「子供たちのために」→「**こ**どものために」

- ・今の「こどものために」、これからの時代を生きる「こどものために」
- ・「子どもの幸せ」をつくっていく

②社会総掛かりで子供たちを育む体制を作るために ⇒ 「学校（社会）はみんなで作る」

キーワード「社会総掛かりで」→「**み**んなで」

- ・「みんなで」できることを考える⇒学校は「みんなで」つくるもの
- ・「みんなで」活動すると、「みんな」が楽しくなる⇒学校が好きになる

③連携・協働体制の構築のために ⇒ 「子どもはみんなで作る」

キーワード「連携・協働体制」→「**つ**なぐ」

- ・教育は人を「つなぐ」「つなぐ」のが学校
- ・「学びは人と人の間で起こる」

(2) 「地域と**と**もにある学校」とは

- 放課後子供教室
- 地域学校協働活動
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会）
- 学校評議員
- 学校関係者評価

←これらの総称

合言葉は、コ・ミ・ツ・ト

こどものために **み**んなで **つ**なぐ 地域と**と**もにある学校 ⇒ コミュニティ・スクール

コミットする = 積極的にかかわる、深くかかわる、責任をもって取り組む

2. コミュニティ・スクールの成果として期待できること

(1) 学校と地域が、今と未来の「こどものために」 未来の創り手を育てる

①「熟議」を、今と未来の「こどものために」

- ・ゴール（目的）を明確にする…「課題解決」なのか「相互理解」なのか
- ・テーマ設定を大切に…「～しよう」「～だろうか」「～をつくろう」→前向きなテーマ「夢」を語る
→地域のことを考える主体性

②「共助」を、未来の「こどものために」

- ・共に助け合う姿（共助）を子どもに伝える
- ・私たちの町では、困っている人がいたら助ける 助けを求めている人に応えるのを一生の仕事に
→「共助」の精神をもつ「人」が育つ

(2) 学校と地域が「みんなで」 学校（社会）はみんなで作る

①「みんなで」活動すると、学校が好きになる

- ・みんなで活動する→学校が好きになる→帰属意識が高まる→自己肯定感
- ・学校が好きな地域→学校が好きな保護者→学校が好きな子ども→学力が高い
→自己肯定感をもつ子どもが育つ

②「みんなで」つくる「みんなの学校」（大阪市立大空小学校）

- ・みんなの学校は、みんなでつくる
- ・卒業生が高校に入って学習ボランティアに
→学校はみんなで作るという考えが広がる 地域で育つ子どもの自尊感情

(3) 学校と地域を「つなぐ」 子どもはみんなで作る

①学校支援ボランティアで「つなぐ」

- ・見守り活動（朝夕の登下校指導）、図書館ボランティア、授業支援ボランティア
- ・全国で600万人以上のボランティア。学習の場での協働
→子どもの喜ぶ顔が見られる 地域・保護者が学校とつながる

②みんなで育ててくれる…人を「つなぐ」

- ・「社会が半分育ててくれる」
- ・「子育ては白い紙を重ねるようなもの」…みんなで紙を重ねる
→「子どもは、みんなで育てる」という意識が高まる

(4) 地域の人と「ともに」育つ

①コミュニティ・スクールで育った子どもが、大学生になって

- ・地域の人の存在と交流があったからこそ、自分らしさ、ありのままの自分が出せた。（東京）
- ・自分で拓く機会を与えてくれた、教えてくれた、提供してくれたコミュニティ・スクール（京都）
- ・自分の成長を喜んでくれる地域の方の存在が、自己肯定感につながった。次は教員としてかかわる。（山口）
- ・子どものころにしてもらったことを、次の世代に伝えていきたい。力を次に伝える歯車になりたい。（福岡）
→自分が受けてきたものを次に伝えようとする「人」が育つ

②地域の人とともに育った子どもが、社会人になって

- ・花よりも花を咲かせる土になれ
→人のためになろうとする「人」が育つ